

兵庫県将来構想研究会 第3回会議 (2019.12.19) 要旨

【議題】人口動態② (今後の検討課題)

(農業・農村の新しい形)

- ・ 人生100年時代が到来することを前提に、70歳から100歳までどうやって働くのかという議論があつてよい。そのときに、受け皿の柱の一つとなるのが農業である。
- ・ 農村は今後圧倒的に女性高齢者が一人で住んでいる社会になる。風通しが良くなり、封建的な雰囲気がガラッと変わる可能性がある。男のいない農村をどう維持するかも考えないといけない。

(女性の視点で考えることの重要性)

- ・ 若い女性を地域に留めたいと言うが、その背後には「地域に残って子どもを産んでもらわないと困る」という考えがある。その発想がある限り、若い女性は都会に逃げていく。
- ・ 若い女性が流出するもう一つの理由は、地元の年長の女性が幸せそうに見えないからではないか。まず、今地域にいる女性が生き生きと暮らせる環境を作ることが大切。

(ジェンダーギャップの解消)

- ・ 法事があると男は酒を飲み、女は料理して酒を出す。今でも田舎に行くとこれが当たり前。そこをある種の民主的専制で行政が入って変えていく。これもビジョンの役割だと思う。
- ・ JALが人事評価にAIを入れたら女性の離職率が下がった。これでわかったのは、リーダーに男性が多く、彼らが浪花節で人事評価をしていたということ。同じ内容の仕事をして、残業が多い人、無理してくれる人などで男性の方を高く評価する傾向があった。AIが純粹に仕事の内容だけで評価すると女性の成績がちゃんと出るようになったので、離職率が下がったという。
- ・ ジェンダーギャップ対策では、フィンランドのようにある時に確固たる意志を持って制度を変える必要がある。行政がトップダウンで変えないとこの現状は変わらない。

(コミュニティの再構築)

- ・ バラバラな個人を社会に結びつける機能が職業にはある。今の学生は、社会のためというより、会社のために働くという感覚が強い。社会と仕事の対応関係を再構築しないといけない。
- ・ 家庭があり、会社があり、サードプレイスがある、と分けてしまうのではなく、仕事をコミュニティに組み込んでいく中で、コミュニティの再構築を考えるという視点もあつてよい。
- ・ 公民館が担ってきた社会教育の活性化を通じて、地域のコミュニティを再構築する方向を考えてはどうか。地域づくりを頑張っているところは公民館活動が活発だったところが多い。

(体験を通じた学びが違いを生む時代に)

- ・ 子どもが頭でっかちになっている。いろんなものを知っているが、自分でやったことがない。体験やいろんな地域へ出て行くことを通じて学ぶことがますます大事になっている。
- ・ 体験が子どものクリエイティビティを伸ばすことに気付いている親は、ネットではなく現実に触れさせる。体験を通じた学びが家庭任せになると、格差の拡大・固定化につながる。大学教育も大切だが、初等教育はもっと大切。恵まれた子だけが良い体験をするようでは不公平だ。
- ・ 東北イノベーションセンターの子ども向けの起業のトレーニングでは、最終的に起業できる子どもは半分もいない。人生の中で失敗することを学ぶのが目的で、失敗を通じて、チャレンジ精神と想像力を身に付けることができる。

(人間性を育む教育)

- ・ 今の子どもは想像力が欠如する傾向にあり、短期的な判断をしがち。相手の立場に立って考える「エンパシー」が教育の中で身に付けば、世の中が変わってくるのでないか。
- ・ 学生の基礎学力低下を感じる。価値は深く学び、人と話して刺激を受け、ようやく生まれてくるもの。教養や歴史などを重視し、流行りの言葉に惑わされない人間を育てる教育が必要。

(学校教育の限界と公教育の再構築)

- ・ 上質な教育には手間とお金がかかる。小中学校の教員は忙しすぎて子どもたちのクリエイティブティや多様性に寄り添う時間がない。地域がうまくコミットしてサポートすることが必要。
- ・ 学校以外のコミュニティ教育を構築し、そこに行政の支援を入れていく。地域に様々な教育機会を作り、そこで働く人を見出していく形で「公」教育の充実を考えるべき。
- ・ 学校教育でカバーできない体験教育を地域でどう補完するかを考えないといけない。体験の意味をきちんと説明できる人が、それを職業とし、地域で活動できるようにする仕組みが必要。
- ・ 兵庫県に生まれ育ったからにはこれくらいは知っているというものがほしい。これが誇れる文化だ、というものを教えていくところにもっと投資してもよいのではないか。

(誰に向けたビジョンなのか)

- ・ 子どもが分かるビジョンにすべき。誰にメッセージを送るのかをはっきりさせた方がよい。
- ・ 30年後の社会の中心となる大学生などに向けたビジョンにするのがよい。

(大きな社会変革を提案するビジョンに)

- ・ どん底にあったフィンランドは、生き残りかけた社会変革で世界最高水準の国に生まれ変わった。2050年は南海トラフ地震が起きた後と考えるのが自然。事前復興の視点から、制度・仕組みを大きく変えて今までの延長線上ではない社会を作り出すビジョンを示せないか。
- ・ どういう暮らしをしたいかを考え、そのギャップを技術や仕組みで埋めるという発想が必要。

(新しい動きが起こるビジョンに)

- ・ ビジョンは作っただけではダメ。県民が見て、どうアプローチできるものか分からないといけない。兵庫発の何かをどんどん生み出していくビジョンであってほしい。
- ・ 新技術の導入は、実験的に規制を取り払い、一気に広くやることが大事。大規模に実際に動かす中でブレイクスルーが生まれる。そんな特区を生み出すビジョンになれば面白い。

(兵庫らしさを生かしたビジョンに)

- ・ 各地域がどう地域らしさを生かしてなりたい姿を描くかが重要。五国からなる多様な兵庫だからこそ、こういう暮らし方ができる、というポリシーを示していくことが必要。
- ・ 県民局にもっと権限を下ろして地域づくりをしないと、面白い兵庫県にならない。

(分散居住の未来が一つの方向性)

- ・ リモートワークが一般化し、通勤・通学の必要がなくなると、鉄道は今までの役割がなくなる。
- ・ 移動の問題は今後解決していくだろう。だとすれば、今少し我慢しているろんなところにある地域の拠点を残しながら、分散して住む生活を標榜するビジョンを示せないか。
- ・ 集約が必要な部分はあるとしても、公権力で選択の幅を奪っていくのは正しい方向ではない。

(以上)